

第20回

第二言語習得研究会 (JASLA) 全国大会

会場：南山大学（地下鉄名城線「名古屋大学」駅すぐ）
参加費：3,000円（予稿集およびジャーナル代を含む）

2009年12月12日（土）

●13:20-16:45

日本における第二言語習得 研究の軌跡と今後の展望

—30年を振り返り、これからの研究を考える—

1978年の『日本語教育』「特集：文法上の誤用例から何を学ぶか」から30年・・・さまざまな領域の研究者が南山に集い、研究パラダイムの変遷を振り返りながら、「習得とは何か」を大いに議論します

●司会 坂本 正 氏（南山大学） 質問者：堀 恵子氏（国際交流基金）

●パネリスト

「認知心理学的アプローチの視点から」小柳かおる氏（上智大学）

「音声習得研究の視点から」 戸田貴子氏（早稲田大学）

「社会言語学の視点から」 渋谷勝己氏（大阪大学）

「認知言語学の視点から」 森山新氏（お茶の水女子大学）

●ディスカッサント 畑佐由紀子氏（広島大学）

2009年12月13日（日）

●13:30-14:45

基調講演 白井 恭弘 氏（ピッツバーグ大学）

外国語学習の科学：SLA研究の過去・現在・未来

12月13日(日)

口頭発表

9:45-12:00

15:00-16:40

- 教室内習得と自然習得の学習者の受身表現の特徴について—教室内習得の学習者が自然習得の学習者から学ぶこと—(黒田弘美)
- 韓国語母語話者における情報要求の発話形式とポライトネス・ストラテジー—日本語母語話者及び英語母語話者との比較から—(宮田麻美)
- 書き言葉における引用表現はどのように習得されるか—場面性・時間性とのかわり—(杉浦まそみ子)
- 第二言語作文過程における内省を促す支援の効果の検証(高橋薫)
- 日本語の外来語を多く含むテキストの読みに対する英語および外来語の語彙処理の影響—中国人日本語学習者の語彙知識との関連—(大和祐子・玉岡賀津雄)
- インドネシア語を母語とする日本語学習者による日本語の条件表現の習得(エルヴィタ・ウィアシー・斉藤信浩・玉岡賀津雄)
- 中国人日本語学習者のテイルの形と意味の習得における動詞の種類、活用および文脈の影響(孫猛・小泉政利・玉岡賀津雄・宮岡弥生)
- 議論の場における学習者の「他者発言容認の前置き表現」の縦断的变化(柳田直美)

- 中国人学習者における日本語アクセントの知覚力と生成力の関係—複合名詞習得の縦断調査を通して—(柳悦)
- 広東母語話者の日本語ナ行音・ラ行音聴取における混同傾向—日本語(/n/,/r/)、英語(/n/,/l/)、中国標準語(/n/,/l/)を比較して—(大久保雅子)
- 日本語自然習得の可能性をもつ地域日本語活動に関する考察—やりとりを通じた学習者の気づきにより自然習得が誘発される可能性に関する—事例—(荻谷太佳子)

ポスター発表

14:45-16:45

- 談話レベルから見る台湾人日本語学習者の視点表現の使用—授受表現を中心に—(魏志珍)
- 連体修飾構造習得過程における「の」の過剰使用の要因に関する新たな見解(了戒直江)
- 中国人日本語学習者による語用論的能力の習得に関わる知識の因果関係の検討(木山幸子・玉岡賀津雄・趙萍)
- 日本語シャドーイングにおける学習者の意識と遂行成績—台湾人中・上級日本語学習者を対象として—(岩下真澄・倉田久美子・松見法男・李翠芳)
- シャドーイング遂行時における学習者のメタ認知に関する研究(城保江)

事前申し込み不要です。当日、直接 ご来場ください

詳細はJASLAホームページ (<http://jsl.li.ocha.ac.jp/jasla/>)